

文教大学情報学部 社会調査ゼミナール研究報告

カラオケのルールとコミュニケーション

2006年2月

情報学部 広報学科 3年

大井 真実

# カラオケのルールとコミュニケーション

## 大井真実

目次	
第1章 研究の概要	・・・ 1
1.1 研究の背景と目的	・・・ 1
1.2 研究の方法	・・・ 1
(1) 進捗経緯	
(2) 調査の概要	
1.3 成果の概要	・・・ 3
第2章 研究の成果	・・・ 4
2.1 回答者の概要	・・・ 4
2.2 学生のカラオケの状況	・・・ 5
(1) カラオケの好き嫌い	
(2) カラオケ事情	
2.3 カラオケにおける暗黙のルール	・・・ 8
(1) 暗黙のルールの認知状況	
(2) 人数とルールの守られ方	
(3) 滞在時間とルールの守られ方	
(4) 性別とルールの守られ方	
2.4 ルール遵守とコミュニケーション	・・・ 14
(1) ルール遵守と相手との関係の変化	
(2) カラオケのコミュニケーション効果	
第3章 まとめと今後の課題	・・・ 19
参考文献	・・・ 20
単純集計結果	・・・ 21

## 第1章 研究の概要

### 1.1 研究の背景と目的

カラオケは日本から発信され、今や世界に広まっているエンターテイメントである。『レジャー白書 2004』によると、カラオケは日本人の余暇の過ごし方として、娯楽の中で第5位にランキングされており、日本の娯楽として確立されている。

今日では、飲み会の2次会、上司との付き合いなど、コミュニケーションの道具としても位置づけることができる。私たち学生にとっても、遊びに行く時の目的であったり、ストレス発散であったりと、身近な娯楽である。

一見すると、ただ単に歌うことを楽しんでいるように見えるカラオケ。しかし、実際にあの空間には、ルールがあり、多くの人がそれを意識していて、使い分けがされているように感じる。私自身、少人数や気の知れた友達とカラオケに行く時は、「歌う順番を守る」という最低限のルール以外は、あまりルールは気にしない。しかし、新入生歓迎会やサークルの飲み会の2次会などの、まだメンバーの親睦が深まっていない場合や、異性も一緒に行く場合、大人数で行く場合は、非常に気を遣う。また、以前1人がルールを守らなかったために、全員が険悪な雰囲気になってしまった経験がある。そのため、ルールを守る・守らないでは、コミュニケーションや印象に違いは出てくるのか。これを検証するため、調査を実施した。

### 1.2 研究の方法

#### (1) 進捗経緯

- ・ 6、7月：研究テーマ検討
- ・ 8月：研究テーマ決定
- ・ 9月：調査票完成
- ・ 10月：調査票配布、回収
- ・ 11月：回収、集計
- ・ 12月：研究結果提出

## (2) 調査の概要

### a. 調査の意図・仮説

- ・ 学生のカラオケ利用状況（好き嫌い・頻度・きっかけ・人数・相手・滞在時間）
- ・ 暗黙のルール（歌う順を守る・選曲に集中しないなど）の意識はあるか  
カラオケに行く人数・性別・相手との関係を問わず、多くの人が暗黙のルールを意識している
- ・ 暗黙のルールをどの程度守るか  
カラオケに行く人数・性別・相手との関係で、守られ方が変わる
- ・ 少人数と大人数でカラオケの歌い方に変化はあるか  
少人数のカラオケは、歌い方のルールが曖昧になる
- ・ 性別でカラオケの歌い方に変化はあるか
- ・ ルール遵守とカラオケ後の相手との関係に変化はある  
ルールが守られた場合は、関係は良好  
ルールが守られなかった場合は、悪影響を及ぼす

### b. 主な質問項目

- ・ カラオケの好き嫌い
- ・ カラオケに行く頻度、きっかけ、人数、相手
- ・ カラオケボックスでの滞在時間
- ・ 暗黙のルール（歌う順を守る、選曲に集中しないなど）の有無
- ・ 人数による、カラオケでの歌い方に関するルール
- ・ ルールが守られた場合、守られなかった場合の相手との関係
- ・ カラオケで感じること
- ・ 回答者のプロフィール

### c. 調査対象者と方法

- ・ 調査対象者 文教大学生
- ・ 調査方法 紙面によるアンケート「カラオケに関する調査」を手渡して配布。
- ・ 配布数 聳塔祭実行委員会 約 40 枚  
サークル 約 20 枚

その他手渡し 約 60 枚

- ・回収数 107 枚
- ・有効回収数 104 枚

### 1.3 成果の概要

・学生は、カラオケが好きな人は約 8 割と圧倒的に多いが、カラオケに行く頻度は「年に数回」と、好きな割に、行く頻度は少ないことがわかった。

・カラオケに行く人数は、「5人以上」が約 4 割と最も多い。男女で比較すると、男性は「3人」「4人」「5人以上」が多いのに対して、女性は「2人」が圧倒的に多く、少人数でカラオケを楽しむ傾向が見られた。

・カラオケに行く相手は、身近な「大学の友達」が最も多く、学生のポピュラーな遊びとして位置づけられていることがわかった。

・カラオケに暗黙のルールがあると意識している人は、約 6 割を占める。また、カラオケに行く頻度が多いグループの方が、暗黙のルールを強く意識している。暗黙のルールを意識している人は、少人数・大人数に関係なく、ルールを概ね守っていることがわかった。また、全般的にカラオケボックスの滞在時間が長い方が、短い方よりもルールの認知は弱いですが、大きい差はない。長時間のカラオケでは、ルールが曖昧になる。

・カラオケの歌い方では、男女で差が見られ、女性は大人数のカラオケの際に気を遣う。

・8割の人はルールが守られた場合、守られなかった場合でも、カラオケ後の相手との関係に特に違いは見られないと感じているが、残りの2割の人は、ルールが守られた場合のカラオケ後の相手との関係は、良好になると感じている。また、ルールが守られなかった場合は、相手との関係に悪影響を及ぼすと感じていることがわかった。

やはり、カラオケボックスには暗黙のルールが存在し、時間や頻度によって多少の差はあるものの、大きい差はなく、全般的にルールは守られていることがわかった。ルールを守る・守らないで、相手との変化に違いが見られるが、大部分の人は気にしていなかった。また、カラオケでの直接的なコミュニケーションは意識されていないことがわかった。

## 第2章 研究の成果

### 2.1 回答者の概要

回答標本は無作為抽出で作成してはいないために、母集団から見て標本に偏りを生じる可能性がある。そこで回答者の分布を、表 2-1-1 と表 2-1-2 で確認しておく。表 2-1-1 の学年別の分布では、3 年生が圧倒的に多い。また表 2-1-2 の性別の分布では、男性が若干多いが、ほぼ同程度で偏りはない。これらの偏りは、回答者全体の分布にはそれなりの影響を与える可能性があり、解釈時には注意が必要である。しかしクロス集計やグループの平均などの層化を行った集計では、影響は限定されると考えられる。

表 2-1-1 回答者と母集団の比較 2005.10 末時点

	1 年	2 年	3 年	4 年	計
回答者	2.4 (18)	3.1 (25)	7.7 (56)	0.6 (5)	3.3 (104)
湘南キャンパス 学生	24.4 (747)	26.1 (799)	23.7 (727)	25.8 (790)	100.0 (3063)

(注) 母集団は湘南キャンパス学生 (2005.10 末時点) である。

表 2-1-2 回答者と母集団の比較

	男子	女子	計
回答者	3.2 (56)	3.6 (48)	3.3 (104)
湘南キャンパス 学生	56.5 (1730)	43.5 (1333)	100.0 (3063)

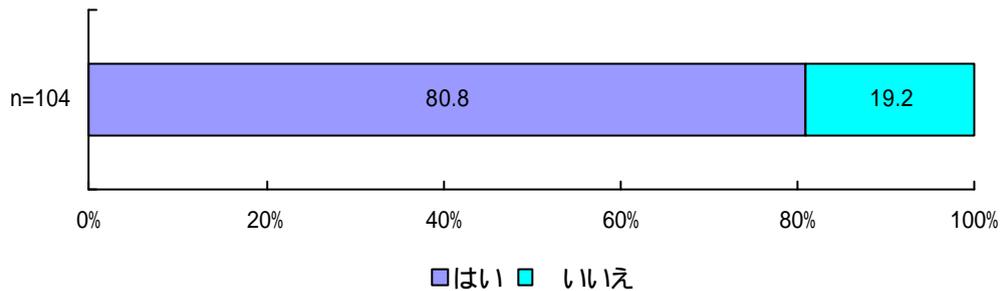
(注) 母集団は湘南キャンパス学生 (2005.10 末時点) である。

## 2.2 学生のカラオケの状況

### (1) カラオケの好き嫌い

カラオケの好き嫌いを調査した結果が、図 2-2-1 である。「カラオケが好き」と答えた人は、8割。「カラオケが嫌い」と答えた人は、約2割。圧倒的に、カラオケが好きな人が多いという結果となった。

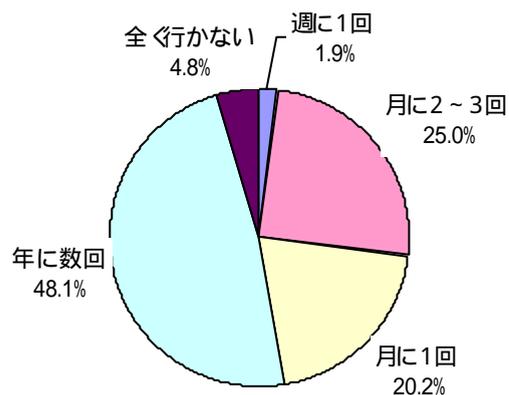
図 2-2-1 カラオケが好きか嫌いか



### (2) カラオケ事情

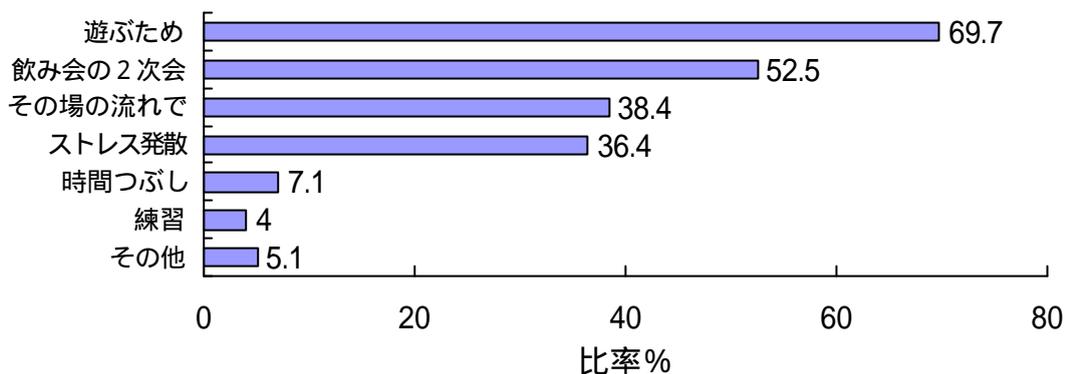
カラオケに行く頻度を示したものが、図 2-2-2 である。「月に2回以上」行くと答えた人は、4分の1だが、「年に数回」が約5割と圧倒的に多いという結果になった。

図2-2-2 カラオケに行く頻度 (n=104)



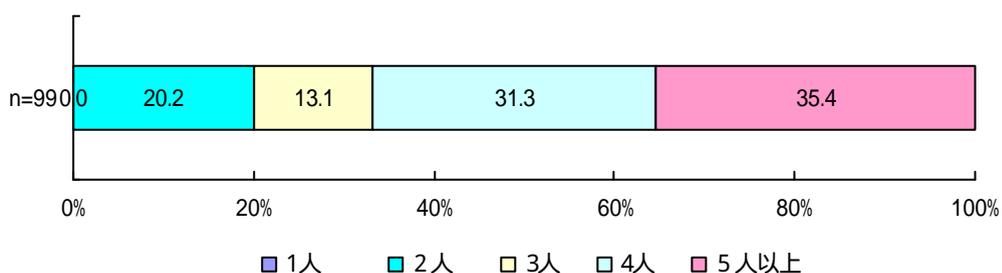
次に、カラオケに行くきっかけについて示したものが、図 2-2-3 である。これは複数回答の設問で、「遊ぶため」が約 7 割で最も多く、学生にとって、カラオケが身近な娯楽となっていることがわかる。次に「飲み会の 2 次会」が約 5 割と続き、カラオケに行く頻度における「年に数回」から推測すると、新入生歓迎会などのイベント契機でカラオケに行くことが考えられる。

図 2-2-3 カラオケに行くきっかけ (n=99)



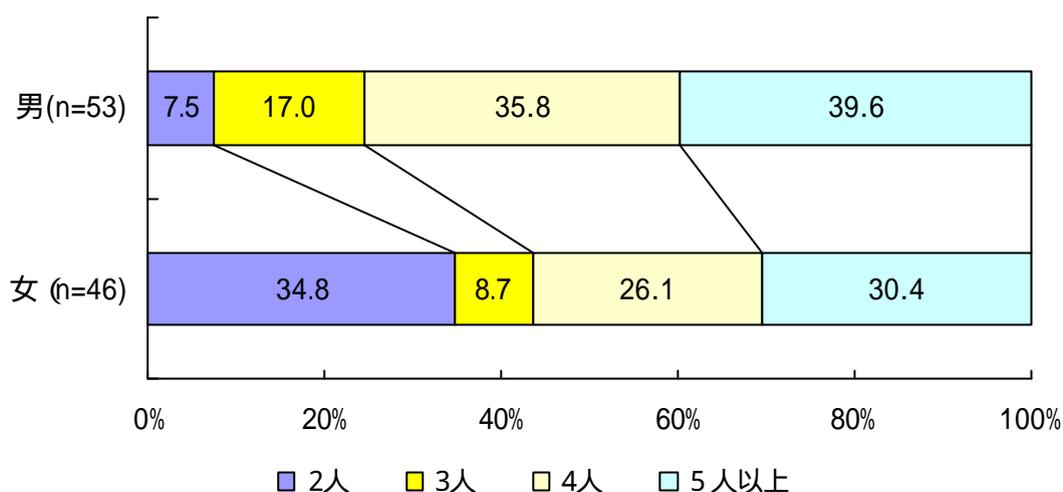
次に、カラオケに行く際の人数を調査した。その結果を示したものが、図 2-2-4 である。「3 人以下」「4 人」「5 人以上」が約 3 分の 1 となった。

図 2-2-4 カラオケに行く人数



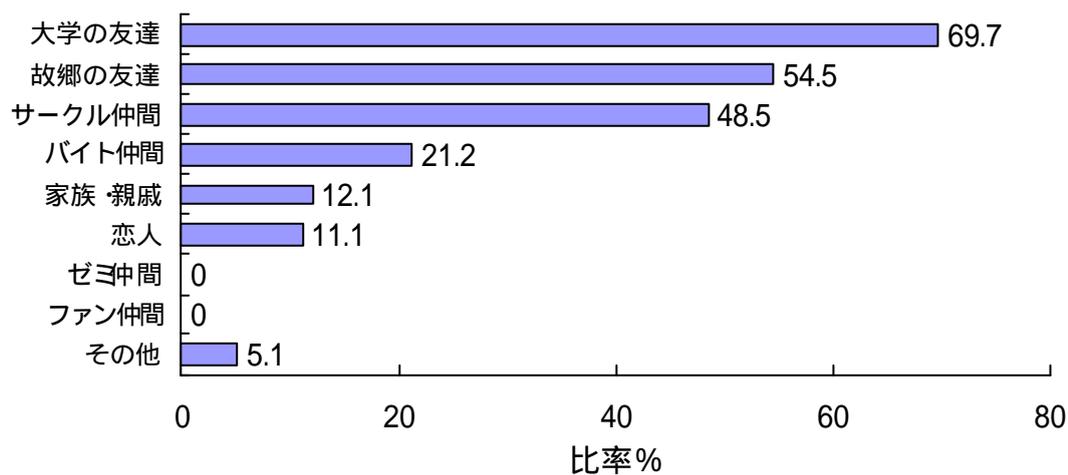
カラオケに行く人数を性別ごとに分析したものが、図 2-2-5 である。男性は女性と比較すると、「3 人」「4 人」「5 人以上」の割合が高い。女性は、男性よりも圧倒的に「2 人」の割合が高い。男性は、わいわいと盛り上がりながら楽しみ、女性は少人数で歌うことを楽しむようだ。

図2-2-5 カラオケに行く人数と性差 ( 2乗 :0.009 )



次に、カラオケに行く相手を調査した。結果は図 2-2-6 の通りである。やはり、「大学の友達」が約 7 割と最も多く、最も身近にいる人とカラオケに行く傾向が見られる。また、「大学の友達」に続き、「故郷の友達」が約 5 割と続くことから、友達同士の遊びではポピュラーな遊びとして位置づけることができる。

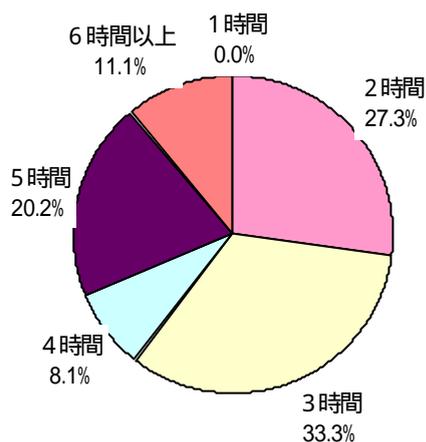
図 2-2-6 カラオケに行く相手 (n=99)



次に、カラオケボックスでの滞在時間について、示したものが図 2-2-7 である。

「3時間」が約 33%と最も多く、次いで「2時間」が約 27%、「5時間」が約 20%となった。「2時間」「3時間」は、平日の昼の利用、「5時間」は、夜間のフリータイム利用と推測できる。

図2-2-7 カラオケボックスの滞在時間 (n=99)



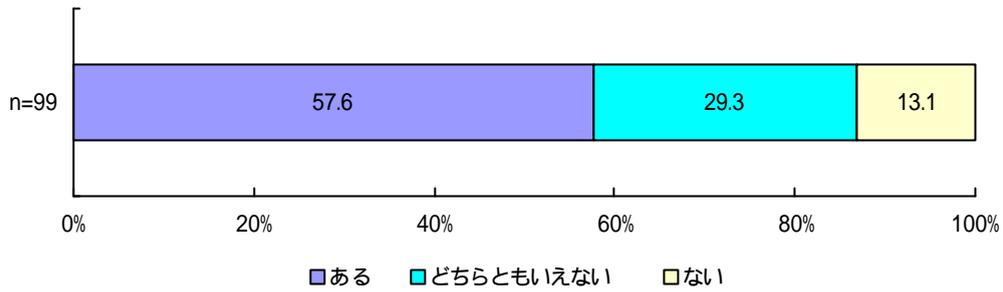
カラオケが好きな人が8割と圧倒的に多く、遊ぶために、大学の友達や故郷の友達と行くことが多い。しかし、年に1回程度しか行かず、頻度は多くない。2時間・3時間程度、平日の昼間に利用するか、5時間以上、夜間のフリータイムを利用し、リーズナブルな時間帯の利用をしているようだ。男性は、みんなでわいわいと盛り上がりながら歌い、女性は少人数で歌を楽しんでいる。

## 2.3 カラオケにおける暗黙のルール

### (1) 暗黙のルールの認知状況

カラオケボックスの中では、歌う順を守る・選曲に集中しないなどの、暗黙のルールが存在するのではないか。この仮説を検証するため、調査を行った。その結果が、以下の図 2-3-1 である。

図 2-3-1 暗黙のルールがあると思うか

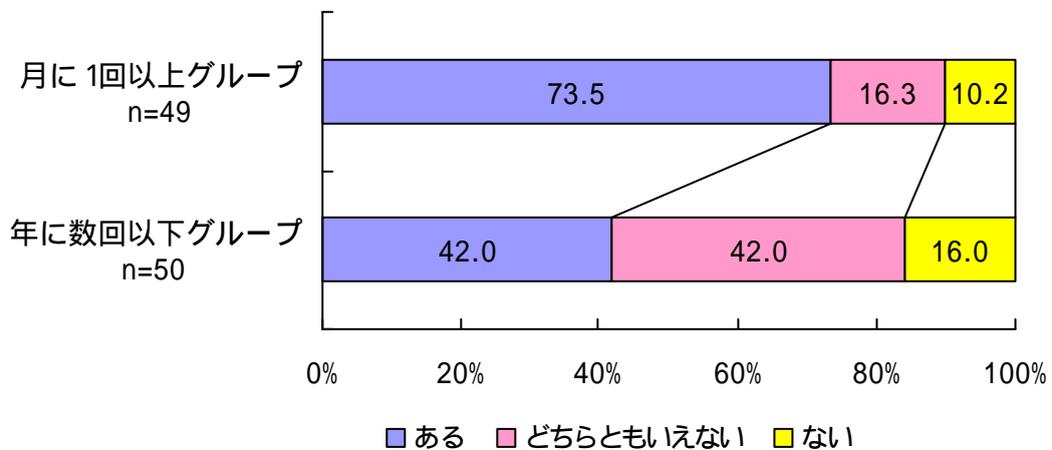


暗黙のルールが「ある」と答えた人は、約6割。「どちらともいえない」と答えた人は、約3割。「ない」と答えた人は、約1割だった。多くの人が、暗黙のルールを意識していることが明確である。

暗黙のルールがあると意識する人と、カラオケに行く頻度の相関を示したものが、図 2-3-2 である。月に1回以上のグループと、年に数回以下のグループとに2区分し、暗黙のルールに対する意識の違いを調査した。

月に1回以上のカラオケに行く頻度の多いグループは、約7割が暗黙のルールが「ある」と答えている。年に数回以下のカラオケに行く頻度の少ないグループは、「ある」という回答が3割程度少なく、「どちらともいえない」「ない」という回答が、月に1回以上のグループより多かった。カラオケ慣れしているグループの方が、より強く暗黙のルールを意識しているという傾向が見られる。

図2-3-2 利用頻度グループ別に見た暗黙のルールの認知  
( 2乗 :0.005 )

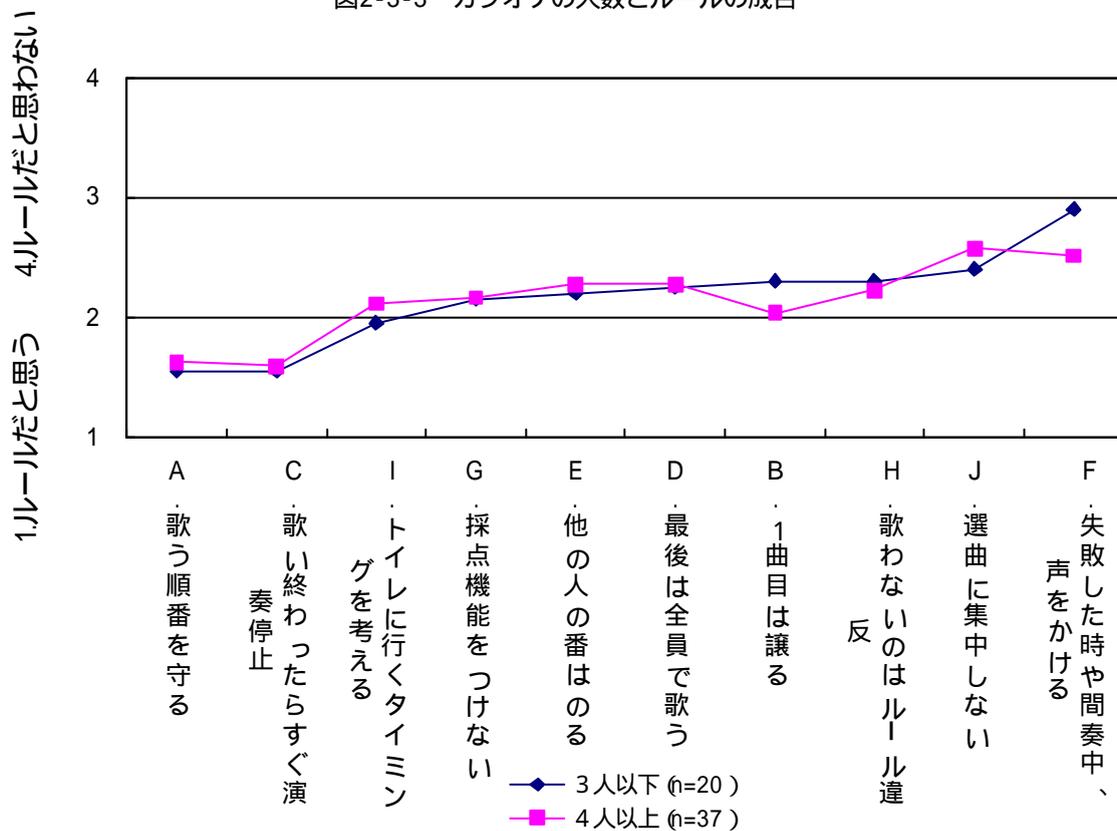


## (2) 人数とルールの守られ方

少人数でのカラオケは、親密な関係であることが推測できる。また、大人数でのカラオケは、全員が親密であるとは限らず、人数によって関係に違いがあると考えられる。そのため、カラオケに行く人数によって、ルールの守られ方に差が起こることが期待される。そこで、3人以下の少人数と4人以上の大人数のグループに2区分し、ルールの守られ方に違いはあるのかを調査した。

図2-3-3は、「1.よくあてはまる」～「4.まったくあてはまらない」の5段階評価をしている。「1.よくあてはまる」に近いほど、ルールがある度合いが高い。

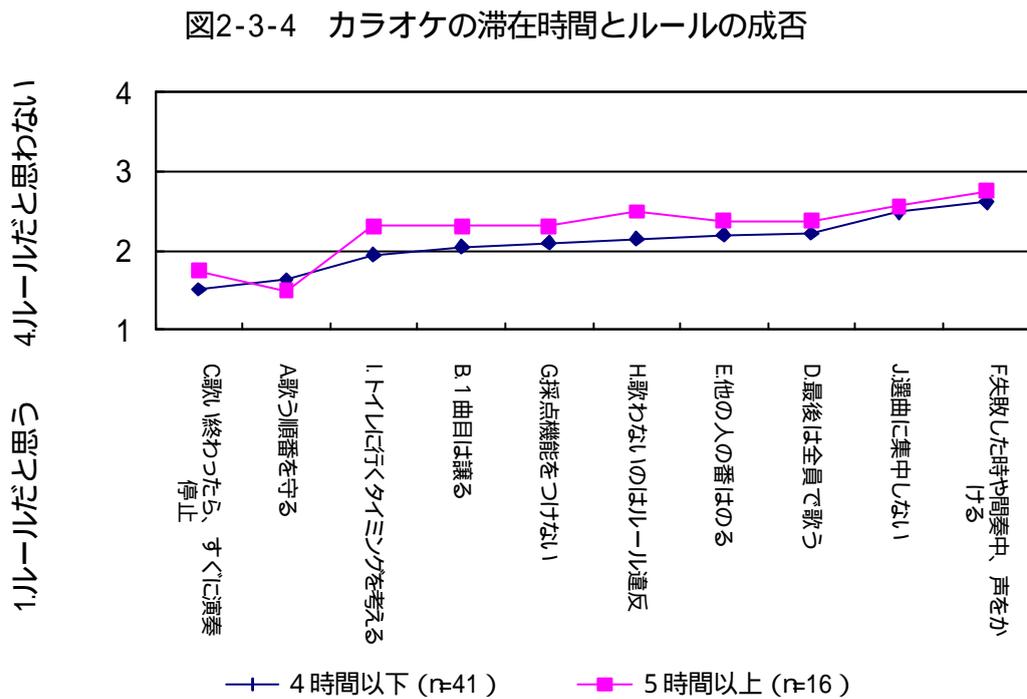
図2-3-3 カラオケの人数とルールの成否



「B. 1曲目は譲る」、「J. 選曲に集中しない」、「F. 失敗した時や間奏中、声をかける」ところに若干の差があるが、有意差はない。したがって、全般にこれらが暗黙のルールとして認知されているが、人数差はないということがわかる。

### (3) 滞在時間とルールの守られ方

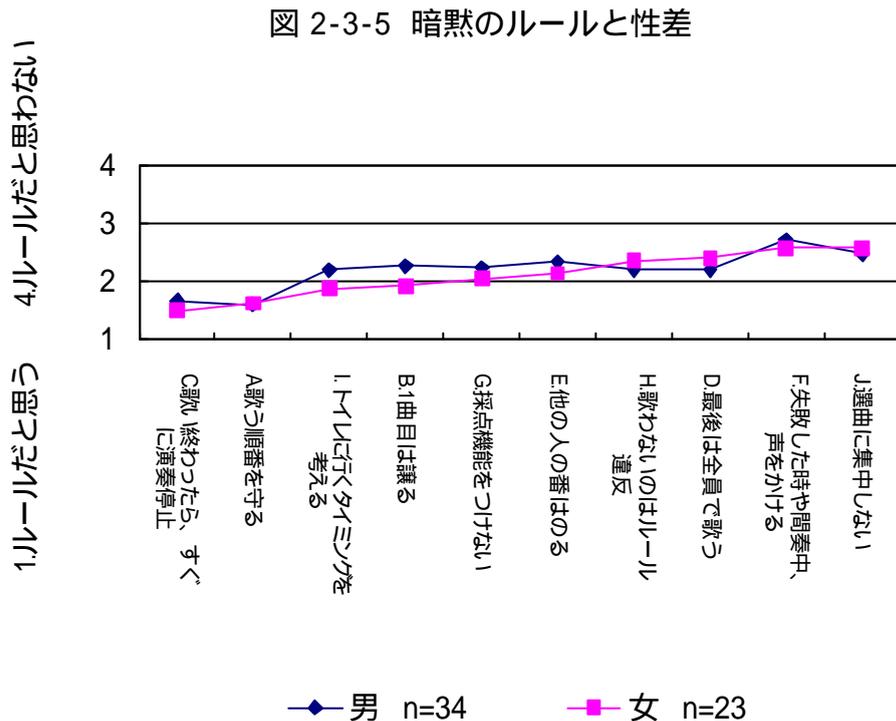
短時間の場合、ルールは守られるが、フリータイム利用などの長時間の場合は、ルールが曖昧になると考えられる。そこで、4時間以下と5時間以上のグループに2区分し、ルールの守られ方に違いはあるのかを調査した。



全般的には、5時間以上のグループの方が4時間以下よりもルールの認知は弱いですが、両者間で大きい差があるわけではない。5時間以上という長時間のカラオケでは、ルールが曖昧になっている傾向がある。

#### (4) 性別とルールの守られ方

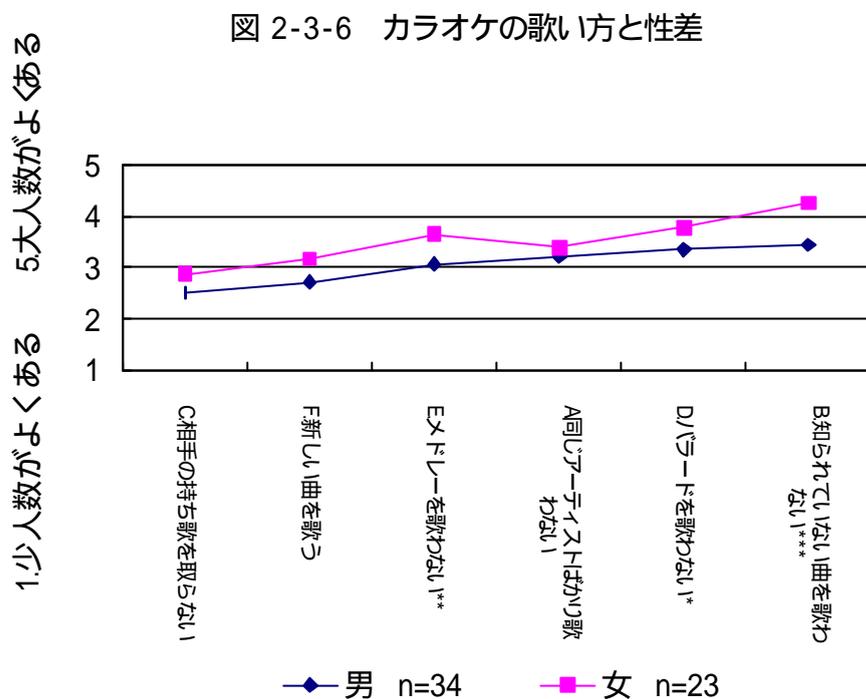
性別によって、暗黙のルールの守られ方に違いがあるかを示したものが、図 2-3-5 である。



女性の方が、暗黙のルールの全般的に当てはまる傾向が強いことがわかった。「H.歌わないのはルール違反」「D.最後は全員で歌う」は、男性の方が当てはまる傾向が強い。これは、図 2-2-5 が示すように、男性は大人数でわいわいと盛り上がる傾向があるため、カラオケでの仲間意識が強いと考察する。

次に、女性の方がルールを守り、気を遣うと考えられる。そのため、性別によって、カラオケの歌い方の暗黙のルールの守られ方が異なることが推測できる。この検証を行うため、3人以下を少人数、4人以上を大人数とし、どちらの場合によく守るかを回答してもらった。

図 2-3-6 は、「1.少人数がよくある」～「5.大人数がよくある」の5段階評価をしている。



「A.同じアーティストばかり歌わない」は、男性・女性ともに差はあまり見られない。しかし、その他の点では、男性と女性では、カラオケの歌い方のルールで、差が見られる。男性は全般的に「3.どちらでもない」と回答した。対して、女性は、大人数の際によくあてはまる傾向が見られ、女性は大人数で気を遣うことがわかる。

カラオケでの暗黙のルールを認知している人は、約6割と多い。特に、カラオケに行く頻度の多い、カラオケ慣れしたグループは、ルールを強く意識している。カラオケに行く人数では、特に認知の差はなく、全般的に意識されている。滞在時間では、短時間グループと長時間グループで、認知の差は特に見られない。しかし、長時間のカラオケでは、ルールが曖昧になる傾向が見られた。性別によっては、女性の方が全般的にルールに当てはまる傾向が強いが、「歌わないのはルール違反」「最後は全員で歌う」という項目では、男性の方が当てはまる傾向があり、男性はカラオケでの仲間意識が強い。性別による歌い方のルールでは、男性は全般的に少人数の際も大人数の際も、守り方に違いは見られないが、女性は大人数でのカラオケの際に、よく気を遣うことがわかる。

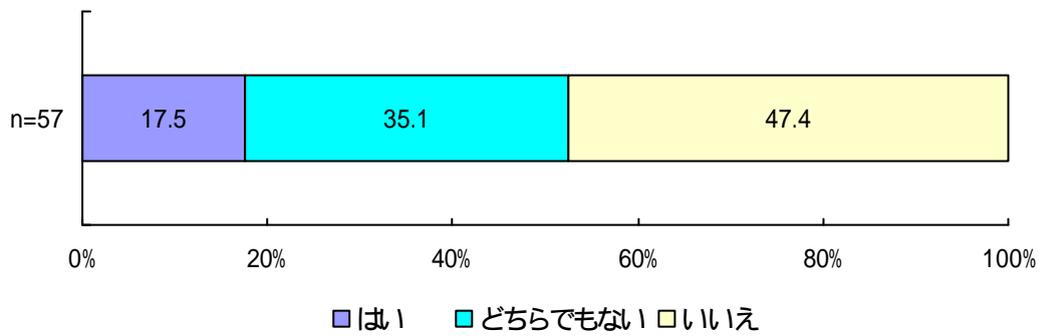
## 2.4 ルール遵守とコミュニケーション

カラオケは、新入生歓迎会やサークル・ゼミなど、新しい出会いがあった時に行われることが多い。このことから、カラオケはコミュニケーションの促進に寄与するという仮説が考えられる。

### (1) ルール遵守と相手との関係の変化

ルールが守られた場合と、守られなかった場合では、カラオケ後の相手との関係に違いが出てくるのではないかと。という仮説を検証するため、調査を行った。

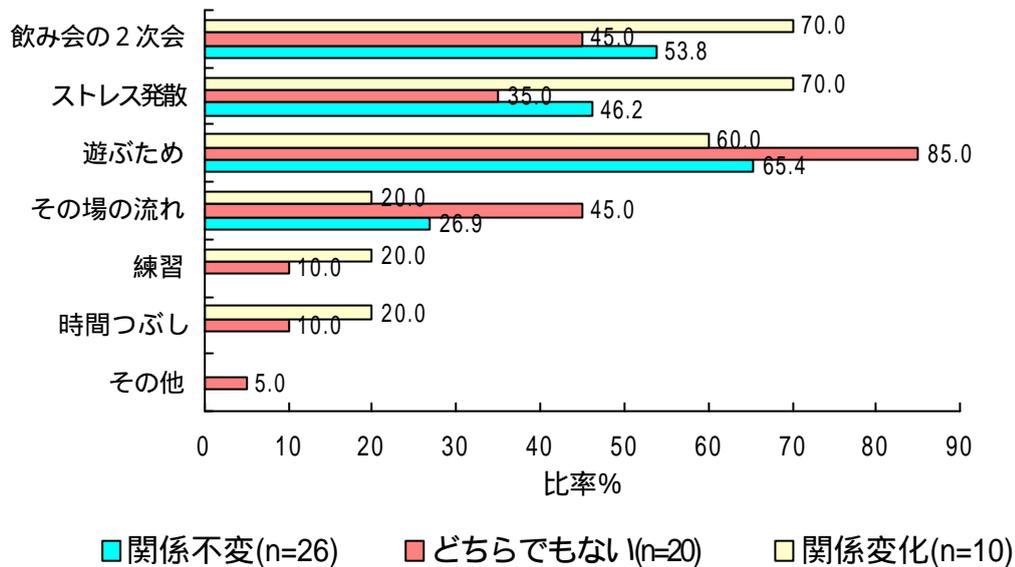
図2-4-1 ルール遵守とカラオケ後の相手との関係の変化



ルールが守られた場合と、守られなかった場合では、カラオケ後の相手との関係に違いが出てくるかという設問で、「いいえ」と答えた人が5割弱で最も多かった。次に、「どちらでもない」が4割弱と続く。このことから、大部分の人はルールが守られた場合も、守られなかった場合も、特に相手との関係に違いは見られないとしているが、2割弱はルールの成否が友人関係に変化をもたらすとしていることがわかる。

ルールが守られた場合と、守られなかった場合とで、カラオケ後の相手との関係変化の有無と、カラオケに行くきっかけとの相関が図 2-4-2 である。

図2-4-2 きっかけと関係変化の有無

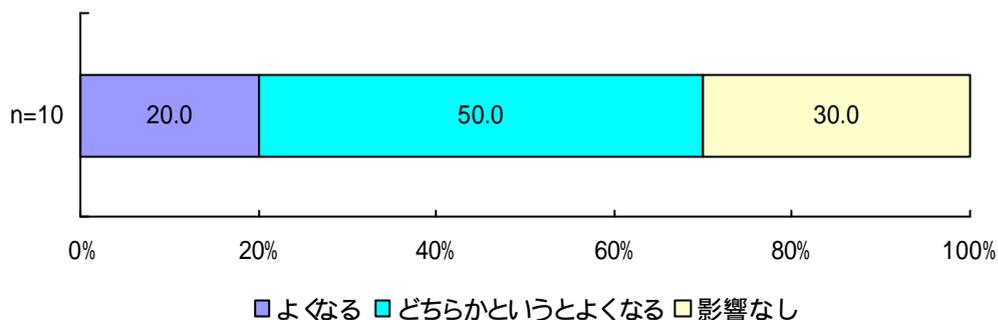


相手との関係に変化が「ある」と答えたグループは、「飲み会の2次会」「ストレス発散」のためにカラオケに行くという人が、約7割。これは、メンバーとの親睦が深まっていない場合や、ストレスが溜まっている状況から、ルールが守られなかった場合、余計にストレスが溜まり、関係に悪影響が出ると考えられる。

「どちらでもない」と答えたグループは、「遊ぶため」が約9割で最も多く、「変化がない」と答えたグループも、「遊ぶため」で約7割が最も多い。遊びに行く友達は仲が良いと考察できるため、ルール違反は気にならないと考えられる。

次に、ルールが守られた場合、カラオケ後の相手との関係を調査した。これを示したものが、図 2-4-3 である。

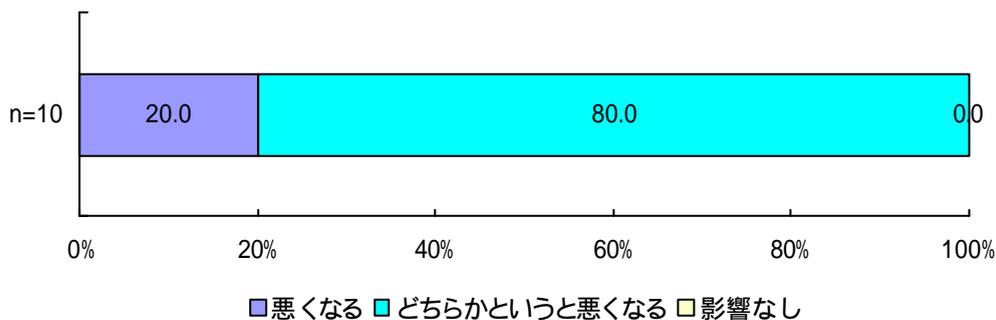
図2-4-3 ルールが守られた場合の相手との関係



「よくなる」「どちらかというよくなる」で、7割を占めている。よって、ルールが守られた場合は、相手との関係が良好になったと考えられる。

次に、ルールが守られなかった場合、カラオケ後の相手との関係を調査した。これを示したものが、図 2-4-4 である。

図2-4-4 ルールが守られなかった場合の相手との関係

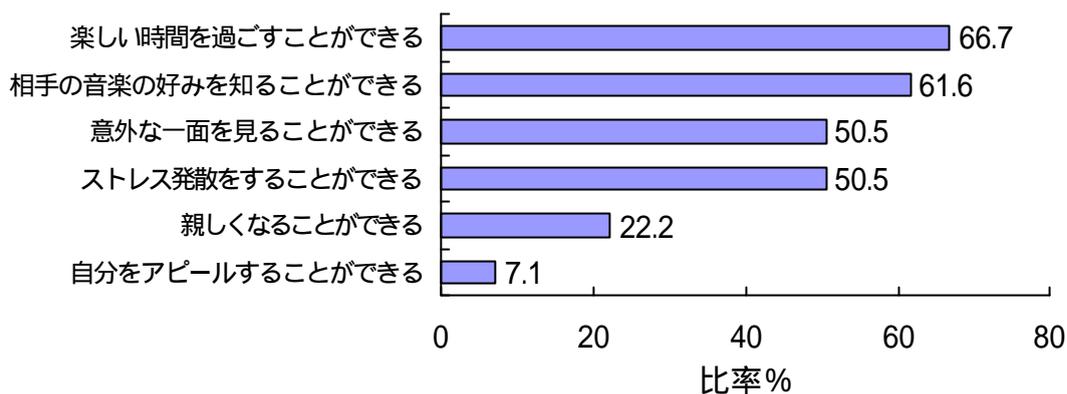


「影響なし」が 0.0%となった。よって、ルールが守られなかった場合は、相手との関係に悪影響を及ぼすと考えられる。

## (2) カラオケのコミュニケーション効果

カラオケに行って感じることを示したものが、図 2-4-5 である。カラオケの効果として考えられることを答えてもらった。

図 2-4-5 カラオケに行って感じること (n=99)



「楽しい時間を過ごすことができる」が約7割、「相手の音楽の好みを知ることができる」が約6割、「意外な一面を見ることができる」が約5割と続く。この3点は、コミュニケーションの要素として考えることができる。

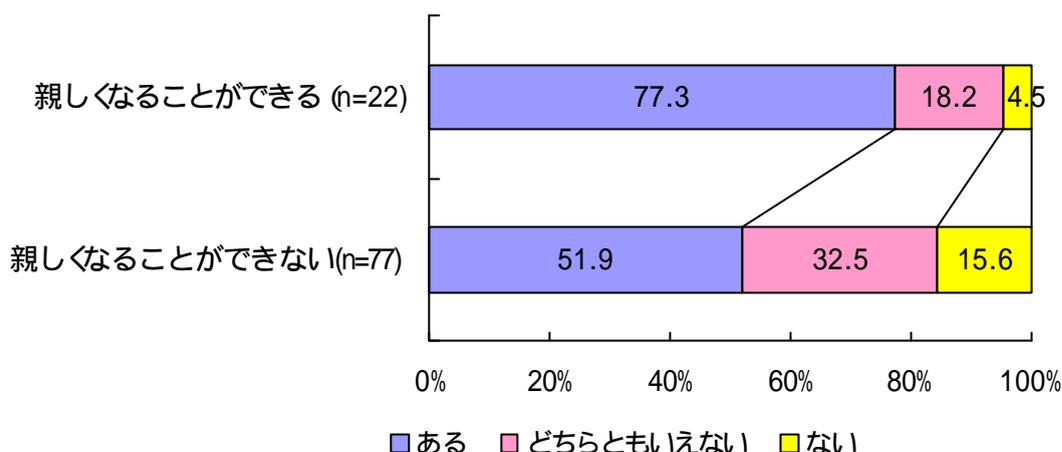
しかし、「親しくなることができる」が約2割と少なく、カラオケでのコミュニケーションは意識されていないのかもしれない。

コミュニケーションの要素として推測していた、「親しくなることができる」で、親しくなることができると回答した人、しなかった人では、違いがあることが考えられる。

これを検証するため、カラオケに行って親しくなることができると感じるグループ、親しくなることができないと感じるグループに2区分した。

カラオケでの親交と暗黙のルールの成否の相関を示したものが、図 2-4-6 である。

図2-4-6 カラオケでの親交と暗黙のルール



「親しくなることができる」と答えたグループは、暗黙のルールが「ある」と答えた人が約 80%。「親しくなることができない」と答えたグループの約 50%より、多い。また、暗黙のルールが「ない」と答えた人は、約 5%で、カラオケで親しくなることができると感じる人は、暗黙のルールがあると、強く意識していることがわかる。

ルールが守られた場合、守られなかった場合でも、大部分の人は、カラオケ後の相手との関係に違いはないと感じている。カラオケに行くきっかけ別の相手との関係の変化では、遊ぶためにカラオケに行くグループは、関係に変化がない。飲み会の2次会やストレス発散が目的のカラオケでは、ストレスのある状況でルール違反があった場合、余計にストレスが溜まり、関係に悪影響が出る。ルールが守られた場合と、守られなかった場合の関係の変化では、守られた場合は関係が良好となり、ルール違反があった場合、関係が悪化する。カラオケに行って感じることから、カラオケでのコミュニケーション要素はあることがわかるが、直接的なコミュニケーションは意識されていない。カラオケで親しくなることができると感じているグループの方が、暗黙のルールを強く意識している。

### 第3章 まとめと今後の課題

#### 学生のカラオケ状況

カラオケが好きと回答した人が圧倒的に多い。また、遊びの目的として、カラオケを挙げる人が7割と、学生にとっても、手軽な娯楽として確立されている。しかし、カラオケに行く頻度はそれほど高くない。学年が進むごとに、カラオケに行く頻度は少なくなる。友達同士、男性は大人数で、女性は少人数で行くことが多い。2・3時間の昼間利用、5時間以上の夜間フリータイム利用が現状のようである。

暗黙のルールがあると思う人は、6割程度で、予想より少なかった。カラオケによく行く人の方が、暗黙のルールを強く意識している。暗黙のルールの意識は、少人数・大人数問わない。カラオケに長時間いるグループと短時間いるグループでは、全般的に長時間のグループのルールの意識が弱い。短時間のグループと大きい差はなく、長時間のカラオケでは、ルールが曖昧になる。男性と女性では、女性の方が全般的に暗黙のルールに当てはまる。歌い方のルールでは、女性は大人数で気を遣うことがわかった。

#### ルール遵守とコミュニケーション

自分が感じたことや経験と、友人への事前調査を踏まえ、「ルールが守られなかった場合、その相手との関係が悪くなる」という仮説を立てた。しかし、「ルールが守られた場合と守られなかった場合とでは、カラオケ後の相手との関係に違いは出る」に「はい」と答えた人が約2割となった。しかし、「ルールが守られた場合、相手との関係は良好になる」「ルールが守られなかった場合、相手との関係に悪影響を及ぼす」という仮説は証明できた。カラオケは「楽しい時間を過ごすことができる」と答えた人が、約7割いることから、ルールは気にせず自己満足で、歌うことを楽しむ人が多いのかもしれない。

#### 今後の課題

研究テーマ決定まで、テーマが一転二転もし、出だしも遅れてしまった。そのせいか、仮説・仮説に対する設問も甘かったように感じる。

アンケートの回収数が少なかったことと、予想していた以上に、設問の分岐のところで回答数が減ってしまったことで、うまく結果に反映できなかった部分があった。また、設問の意図するニュアンスがうまく伝わらなかったと推測できる箇所もあった。

今後は、テーマ・調査票作成の部分で、行き詰ったからと言って、すぐに諦めるのではなく、もっと多方面から客観的に物事を見て、粘り強く結論を導き出せるようになりたいと思う。

#### 参考文献

- ・野口恒 カラオケ文化産業論 2005 PHP 研究所
- ・社会経済生産性本部 レジャー白書 2004 2004 社会経済生産性本部
- ・高野拓也 「カラオケにおける選曲」 2003 関西大学社会学部論文
- ・前田茂伸 「人はなぜ、カラオケに“ハマル”のか」 1998 中京大学社会学部

## カラオケに関する調査

2005.10

ゼミナール研究のための調査です。ご協力をお願いします。

文教大学 広報学科3年 大井真実

回収数：107 票      無効票：3 票      有効数：104 票

問1．あなたはカラオケが好きですか？（ は1つだけ）      n=104

1．はい <b>80.8</b>	2．いいえ <b>19.2</b>
------------------	-------------------

問2．あなたはどのくらいカラオケに行きますか？（ は1つだけ）      n=104

1．週に1回 <b>1.9</b>	2．月に2～3回 <b>25.0</b>	3．月に1回 <b>20.2</b>	4．年に数回 <b>48.1</b>	問3へ
5．全く行かない <b>4.8</b> 付問1へ				

付問1．あなたがカラオケに全く行かない理由は、何ですか？（ はいくつでも）      n=5

1．人前で歌うことが苦手 <b>100.0</b>	2．歌が下手だから <b>60.0</b>
3．歌える歌がないから <b>40.0</b>	4．雰囲気が苦手 <b>20.0</b>
5．その他 <b>0</b>	

付問1に答えた方は、F1へお進み下さい。

問3．あなたがカラオケに行くきっかけは、何ですか？（ はいくつでも）      n=99

1．飲み会の2次会 <b>52.5</b>	2．遊ぶため <b>69.7</b>	3．練習 <b>4.0</b>
4．ストレス発散 <b>36.4</b>	5．時間つぶし <b>7.1</b>	6．その場の流れで <b>38.4</b>
7．その他 <b>5.1</b>	無回答 <b>0.5</b>	

問4．あなたがカラオケに行く時、特に何人で行くことが多いですか？（ は1つだけ）      n=99

1．1人 <b>0</b>	2．2人 <b>20.2</b>	3．3人 <b>13.1</b>	4．4人 <b>31.3</b>	5．5人以上 <b>35.4</b>
---------------	------------------	------------------	------------------	--------------------

問5．あなたがカラオケに行く人は、どんな人ですか？（ はいくつでも）      n=99

1．故郷の友達 <b>54.5</b>	2．大学の友達 <b>69.7</b>	3．サークルの仲間 <b>48.5</b>
4．ゼミの仲間 <b>0</b>	5．バイトの仲間 <b>21.2</b>	6．家族・親戚 <b>12.1</b>
7．恋人 <b>11.1</b>	8．ファン仲間 <b>0</b>	9．その他 <b>5.1</b>

問6．あなたは平均してどのくらいカラオケボックスにいますか？（ は1つだけ）      n=99

1．1時間 <b>0</b>	2．2時間 <b>27.3</b>	3．3時間 <b>33.3</b>
4．4時間 <b>8.1</b>	5．5時間 <b>20.2</b>	6．6時間以上 <b>11.1</b>

問7．あなたはカラオケに暗黙のルール（歌う順を守る・選曲に集中しないなど）があると思いますか？

（ は1つだけ）      n=99

1．ある <b>57.6</b>	2．どちらとも言えない <b>29.3</b>	3．ない <b>13.1</b>	問12へ
------------------	-------------------------	------------------	------

問 8 . あなたがカラオケに行く時、次の A ~ J がどの程度あてはまりますか？ ( は各項目 1 つ )

n=57

	よく あてはまる	やや あてはまる	あまり あてはまらない	まったく あてはまらない
A . 歌う順を守る	50.9	40.4	7.0	1.8
B . 1 曲目は譲る	35.1	26.3	29.8	8.8
C . 歌い終わったら、すぐに演奏停止	59.6	24.6	14.0	1.8
D . 最後は全員で歌う	21.1	42.1	26.3	10.5
E . 他の人の番は、のる	12.3	56.1	26.3	5.3
F . 失敗した時や間奏中、声をかける	10.5	35.1	33.3	21.1
G . 採点機能をつけない	31.6	31.6	26.3	10.5
H . 歌わないのはルール違反	26.3	33.3	29.8	10.5
I . トイレに行くタイミングを考える	36.8	31.6	21.1	10.5
J . 選曲に集中しない	15.8	28.1	45.6	10.5

問 9 . カラオケに行く場合、人数は様々です。

ここでは、3 人以下の少人数で行く場合、4 人以上の大人数で行く場合に分けて考えて、4 月以降でそれぞれ何回程度行っているかを教えてください。

( 1 ) 3 人以下の少人数の場合 ( は 1 つだけ ) n=57

1 . 3 回未満	42.1	2 . 3 ~ 5 回	28.1	3 . 6 ~ 10 回	19.3	4 . 11 ~ 20 回	5.3
5 . 20 回以上	0	無回答	5.3				

( 2 ) 4 人以上の大人数の場合 ( は 1 つだけ ) n=57

1 . 3 回未満	42.1	2 . 3 ~ 5 回	31.6	3 . 6 ~ 10 回	22.8	4 . 11 ~ 20 回	0
5 . 20 回以上	3.5						

問 10 . 3 人以下を少人数、4 人以上を大人数とした場合、カラオケの歌い方は、少人数と大人数では、異なることが想定されます。そのような相違点について、下記の A ~ F の事柄は、少人数の方でよく現れるか、大人数の方でよく現れるかを教えてください。( は各項目 1 つ ) n=57

	少人数が よくある	少人数が ややある	どちらとも いえない	大人数が ややある	大人数が よくある
A. 同じアーティストばかり歌わない	7.0	10.5	43.9	24.6	14.0
B. 知られていない曲を歌わない	1.8	12.3	24.6	29.8	31.6
C. 相手の持ち歌を取らない	14.0	29.8	40.4	8.8	7.0
D. パラードを歌わない	0	3.5	54.4	28.1	14.0
E. メドレーを歌わない	1.8	8.8	59.6	17.5	12.3
F. 新しい曲を歌う	12.3	12.3	56.1	12.3	7.0

問 11 . ルールが守られた場合と、守られなかった場合とでは、カラオケ後の相手との関係に違いは出てきますか？ ( は 1 つだけ ) n=57

1 . はい 17.5	付問 1 へ	2 . どちらでもない 35.1	3 . いいえ 47.4	問 12 へ
-------------	--------	------------------	--------------	--------

付問 1 . ルールが守られた場合、カラオケ後の相手との関係はどれにあてはまりますか？ ( は 1 つだけ ) n=10

1 . よくなる 20.0	2 . どちらかというよくなる 50.0	3 . 影響なし 30.0
---------------	----------------------	---------------

付問 2 . ルールが守られなかった場合、カラオケ後の相手との関係はどれにあてはまりますか？ ( は 1 つだけ ) n=10

1 . 悪くなる 20.0	2 . どちらかという悪くなる 80.0	3 . 影響なし 0
---------------	----------------------	------------

問 12 . あなたがカラオケに行った時に感じることは、どんなことですか？ ( はいくつでも ) n=99

1 . 相手の音楽の好みを知ることができる 61.6	2 . 意外な一面を見ることができる 50.5
3 . 楽しい時間を過ごすことができる 66.7	4 . 自分をアピールできる 7.1
5 . ストレス発散することができる 50.5	6 . 親しくなることができる 22.2

最後にあなた自身についてお聞きします。

F 1 . 性別 n=104

1 . 男 53.8	2 . 女 46.2
------------	------------

F 2 . 学科 n=104

1 . 広報 39.4	2 . 経営情報 27.9	3 . 情報システム 14.4
4 . 国際関係 10.6	5 . 国際コミュニケーション 4.8	6 . 短大 2.9

F 3 . 学年 n=104

1 . 1年 17.3	2 . 2年 24.0	3 . 3年 53.8	4 . 4年 4.8
-------------	-------------	-------------	------------

F 4 . 血液型 n=104

1 . A型 44.2	2 . B型 21.2	3 . O型 28.8	4 . AB型 4.8	5 . 分からない 0
無回答 1.0				

調査は以上で終了です。ご協力ありがとうございました。